

DI 調査結果（令和7年1月-3月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『景況感は依然として低迷しており、停滞が続いている。

来期についても改善傾向にあるものの見通しが立たず不安感がある』

【調査概要】

1. 今期(令和7年1月-3月期)の業況調査 DI12 項目では、「受注単価販売価格」など4項目がプラス、「売上高」など8項目がマイナスとなり、7項目が悪化している。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」は、▲19.1(前回▲6.3)と減少した。また高騰が続いている「原材料価格」も▲39.4(前回▲39.9)と横ばいで推移し、「収益状況」も▲19.7(前回▲8.5)と悪化しており、原材料価格の高騰や防衛的な賃金引上げなど厳しい状況が窺える。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「受注残」3.3(前回3.4)は横ばいで推移したものの、一部業種に試作が出ていることや、4月以降の増産対応のため、「操業率」▲7.9(前回▲10.5)、「生産設備」3.3(前回▲1.9)が少し改善した。
3. 来期については、「来期受注」▲12.5(前回▲20.0)と改善し、それに伴い「来期採算」▲13.7(前回▲16.4)と少し改善したものの、「来期資金繰」▲13.7(前回▲9.9)と悪化するなど、先行きについては見通しがたっていない。
4. 「企業経営上の悩み」については、「受注不安定」が37.1(前回38.7)と引き続きトップとなった。「人材不足」も28.0(前回32.7)と依然として高く、自動化や省人化の取組みが急がれる。
5. 景況感は海外経済減速等の影響により依然として低迷しており停滞が続いている。来期にかけて一部の指標に改善の兆しが見られるものの、原材料費の高騰や賃金引上げ、長引くロシア・ウクライナ問題とともに、欧米や中国経済の動向などの影響を受け、依然として先行き不透明であり、不安感が拭えない。

